

安全・安心で高品質な農産物生産と 持続的な農業生産のための土壌・施肥管理技術の開発

環境・土壌研究室

26年度の主要研究課題の概要

『水稻「ふくまる」専用全量基肥肥料の開発』(H25～26)

水稻新品種「ふくまる」の生育にマッチした全量基肥肥料を開発し、高品質米生産が可能な施肥技術を確認します。

『米の旨味成分を核とした新しい評価法による食味特性の解明と実用化技術の開発』(H22～26)

米の旨味成分と食味官能試験の「味」との関連性に注目して新しい食味評価法を開発します。また、栽培法や産地との関係を明らかにし、食べたときに本当においしい米の栽培条件を明らかにします。

『発酵鶏ふんを用いた飼料用米の安定多収栽培技術の確立』(H24～26)

耕畜連携による鶏ふん堆肥を利用した飼料用米の多収生産技術を確認するため、飼料用米の養分吸収特性の解明と多収栽培における窒素負荷を明らかにします。

『エコ農業茨城推進のための減化学農薬・減化学肥料栽培技術開発と実証』(H25～27)

化学肥料を50%削減可能な土地利用型露地野菜の施肥技術を開発し、環境負荷低減と安全・安心な農作物生産を実現する減化学肥料・化学農薬栽培を実証します。

主要な成果



写真 近赤外分光分析装置による
生いもデンプン含量測定の見易化

カンショ「ベニアズマ」生いもデンプン含量は、携帯型の近赤外分光分析装置で測定可能で、作業にかかる労力を大幅に軽減することができる。

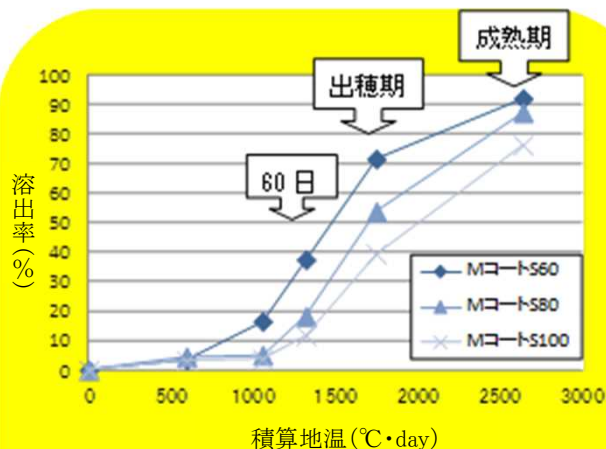


図 水稻「ふくまる」栽培に供試した緩効性肥料の窒素溶出パターン

100日タイプより溶出の速い60日・80日タイプの緩効性肥料を用いた方が、「ふくまる」の収量は高く、一発基肥肥料として適している。

今後の方向

1. 農耕地土壌の実態調査に基づく持続的な土壌管理と合理的な施肥法の解明
2. 高品質で食味の良い米、かんしょ等を生産するための土壌施肥管理技術の開発
3. 環境負荷の少ない安全・安心なエコ農産物生産技術の開発